

健康

元気のヒント

◇83◇



徳島大学病院腎臓内科講師

長井 幸二郎

多発性嚢胞腎とは両側の腎臓に「嚢胞」といわれる水の袋がたくさん発生し、腎臓の機能が低下していく疾患です。その多くは遺伝によって起こり、両親のどちらかがその病気である場合、性別に関係なく50%の確率で子どもに遺伝します。遺伝性疾患の中でも発症率は高く、日本人の約4千人に1人が患っていると考えられています。

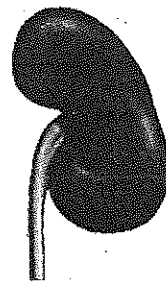
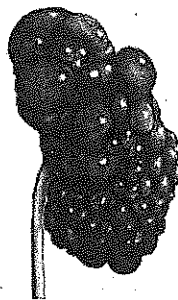
多発性嚢胞腎

腎機能低下し合併症も

腎機能低下に対する治療としては特異的なものではなく、全ての腎疾患に共通する血圧コントロールなど一般的な治療のみでした。しかし、2012年に「トルバタン」という利尿剤が嚢胞の増大と腎機能の悪化速度を遅らせることが報告され、日本でも14年に保険適応となり、使用可能となりました。さらに、15年1月には多発性嚢胞腎が国の難病指定疾患となり、治療において金銭的な補助が受けられる場合があります。

条件合えば薬物療法可能

「これまで、この疾患の腎機能低下に対する治療としては特異的なものではなく、全ての腎疾患に共通する血圧コントロールなど一般的な治療のみでした。しかし、2012年に「トルバタン」という利尿剤が嚢胞の増大と腎機能の悪化速度を遅らせることが報告され、日本でも14年に保険適応となり、使用可能となりました。さらに、15年1月には多発性嚢胞腎が国の難病指定疾患となり、治療において金銭的な補助が受けられる場合があります。」



多発性嚢胞腎の腎臓(左)と正常な腎臓(徳島大学病院提供)

6歳の尿(通常の3〜4倍の尿量)が出るのが見込まれるので、それに対応するため飲水指導を中心とした生活指導を行います。退院後も定期的な受診を、少なくとも月1回の採血による経過観察が必要です。患者、患者とともに薬のことを勉強し、協力して治療にあたるのが重要になります。

(第2土曜日掲載)